

経済・財政一体改革推進委員会

第3回 Well-being 特別セッション

「Well-being」と地域、時間、データについて

2025年3月26日

独立行政法人経済産業研究所

小西葉子

自己紹介

現職

経済産業研究所 (RIETI) 上席研究員

独立行政法人中小企業基盤整備機構 中小企業応援士

一般社団法人日本統計学会 理事 (広報)

統計委員会臨時委員

名古屋大学教育学部附属中・高等学校 : SSH運営指導委員

滋賀大学データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター 特任教授

略歴

名古屋大学にて博士号 (経済学) を取得し、2014年より現職。

2016年から経済産業省の「ビッグデータを活用した新指標開発プロジェクト」にて、インテージ社のSRI+とGfK社のPOSデータを活用した「METI POS小売販売額指標[マイクロ]」の開発に携わる。コロナ禍では、METI-POS指標とインテージ社をはじめとする民間ビッグデータを活用し、消費動向把握とその発信を積極的に行った。



大学、地方自治体や中央省庁、民間企業で実務に役立つ統計学の講義を行っている。

計量経済学の知見を活かし、消費、観光、医療、物流、省エネ政策等、幅広い分野の研究を行う。

<https://www.rieti.go.jp/users/konishi-yoko/>

事務局としての問題意識（論点提示）

<本特別セッションを通じて議論いただきたい点>

- ・どのような要素が、一人一人のWell-being向上にとって大事なのか。
-  ・ Well-beingの観点から、地方に人を惹きつけるのは、どのような要因なのか。
- ・その上で、Well-beingを高めるには、どのように施策を見直していくべきと考えられるか。
-  ・ どのように関連施策を評価していくか。例えばKPIをどのように設定するか。また、どのようにEBPMの手法を活用していくか。
- ・一人一人のWell-beingを高めることによる副次的な効果は何か。

出所：内閣府「第1回well-being特別セッション 事務局説明資料 令和7年3月12日」p.2より抜粋

1 生活の満足度の「なぜ？」からKPIのヒントを得る

内閣府「満足度・生活の質に関する調査」のダッシュボードの結果より

- なぜ？ 女性の満足度が高いのだろう？ ▶ 暮らしぶり、消費、時間・・・労働参加率や賃金が低いのになぜ？
 - なぜ？ 高齢者の満足度が高いのだろう？ ▶ 暮らしぶり、健康、時間・・・健康不安が高まるのになぜ？
 - なぜ？ 都会の満足度が高いのだろう？ ▶ 地域のアメニティ、サービス、消費・・・物価が高いのになぜ？
- なぜ？ から、政策として取り組めることを探していくとよいのでは？ と思います。

満足度・生活の質を表す指標群(well-beingダッシュボード)

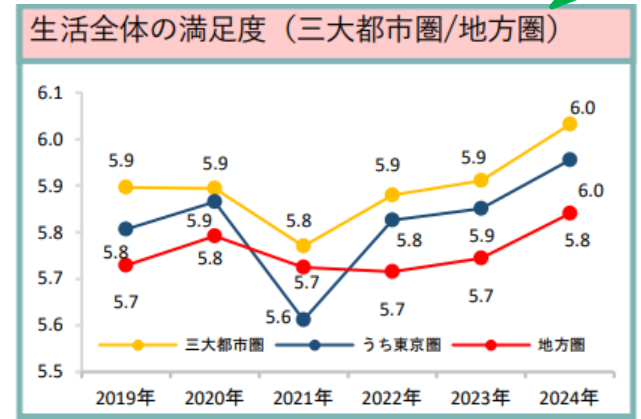
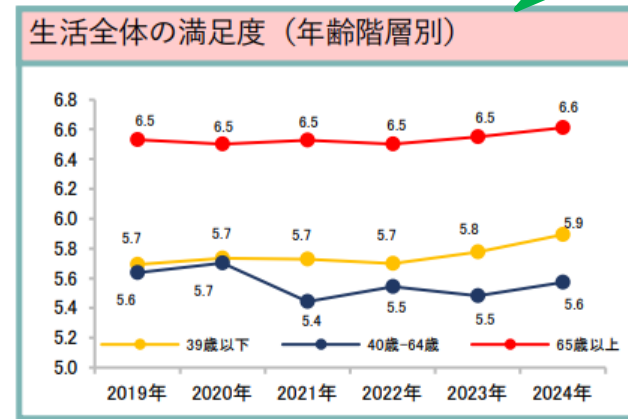
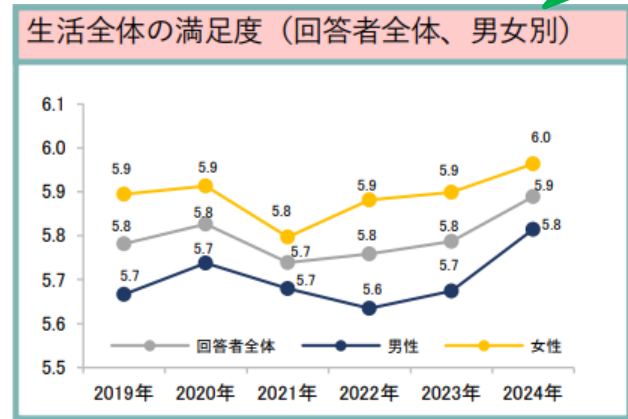


(1) 生活全体の満足度

なぜ？ 女性

なぜ？ 高齢者


なぜ？ 都市部




出所：<https://www5.cao.go.jp/keizai2/wellbeing/manzoku/pdf/satisfaction.pdf> より抜粋

 なぜ知りたい？

- ▶ Well-beingが地域によって異なるから
- ▶ 居住者以外の人を惹きつけるものを持っている地域は、居住者のWell-beingも高いと考えるから
- ▶ 関係したいと思う地域は、Well-beingが高いと考えるから

 Well-beingだけでなく、地域別（市町村）の客観データが必要です（都道府県は十分にあります！）。

 デジタル庁の「地域幸福度well-being指標」のダッシュボードは可視化に優れて便利です。
<https://well-being.digital.go.jp/dashboard/>


 私の仮説 ▶ 地域の魅力はアメニティと人材力（特に地方自治体）との関係が強い

 **観光をきっかけにした関係**

観光需要に関するアメニティ ▶ 交通インフラ、Wi-Fi、ホテル、レストラン、ショッピング、自然、温泉、文化施設……

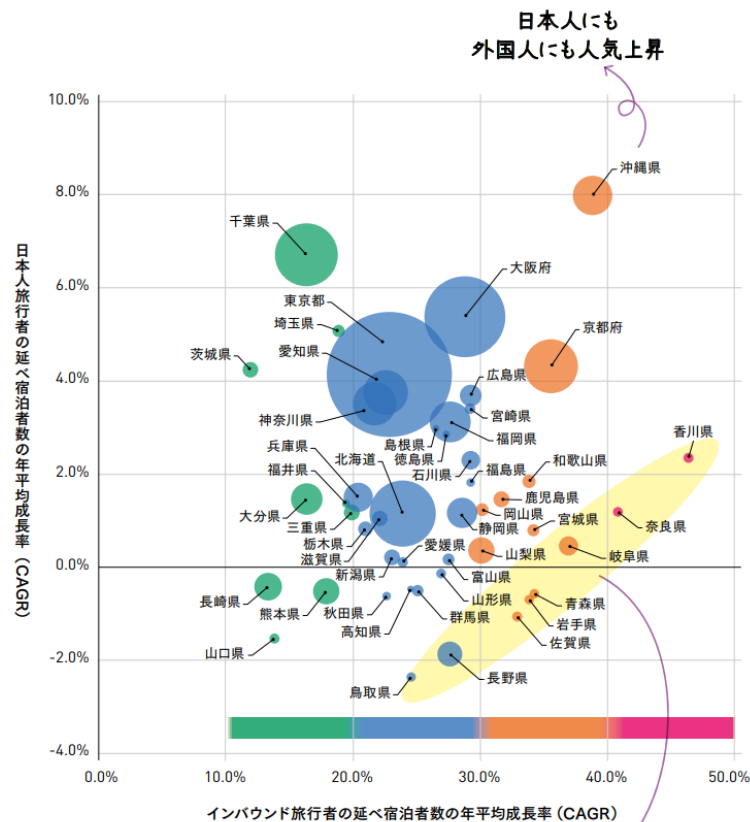
時間固定的なものは、公的統計調査から入手

短期間で変化するものは、民間データ、行政記録情報、IT技術を使って収集可能

 観光庁の「宿泊旅行統計調査」で、毎月の各地域の日本人と外国人旅行者の延べ宿泊者数が入手可能

観光庁の「宿泊旅行統計調査」で、毎月の各地域の日本人と外国人旅行者の延べ宿泊者数が入手可能

図34 日本人/インバウンド旅行者のCAGRの散布図 (2011~2019年)

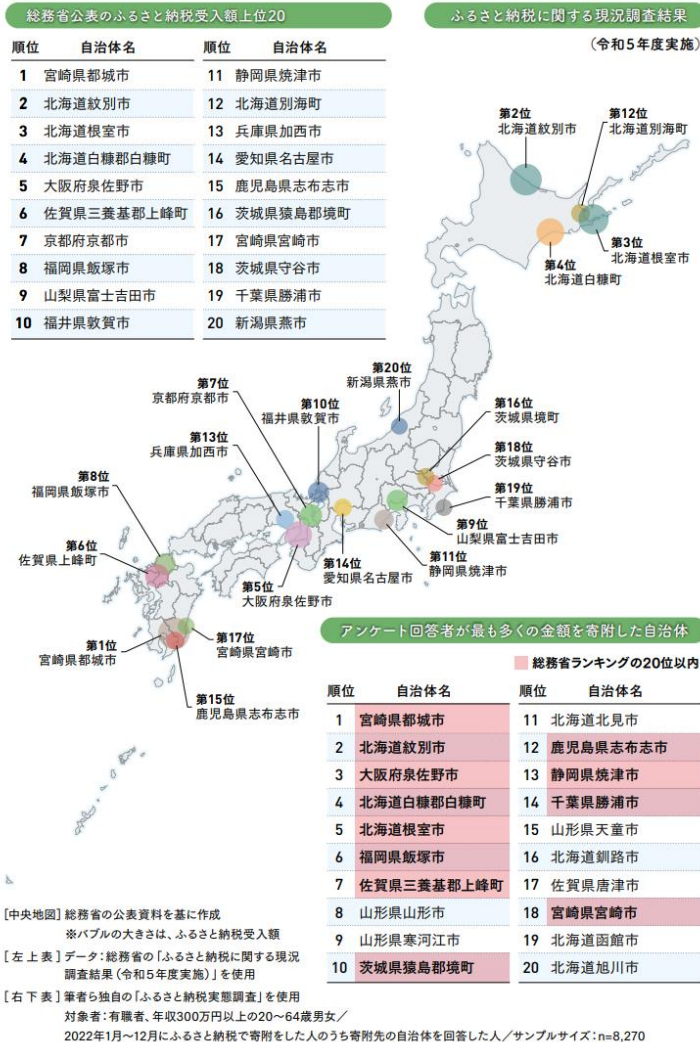


- ▶ 2015年以降の急激なインバウンド需要を取り込めている地域にはどんなアメニティや取り組みがあるのか？
- ▶ キャッシュレス化、Wi-fi利用など、交通インフラなど、観光環境を整えることで居住者の利便性も高まる。ただし、一定量を超えると混雑による負の影響も起こる。
- ▶ コロナ禍で地域間移動が止まると、分析が困難になる。

出所：小西葉子「答えはデータの中にある リサーチャーが永く使える分析手法」,KADOKAWA, 2025年

ふるさと納税をきっかけにした関係

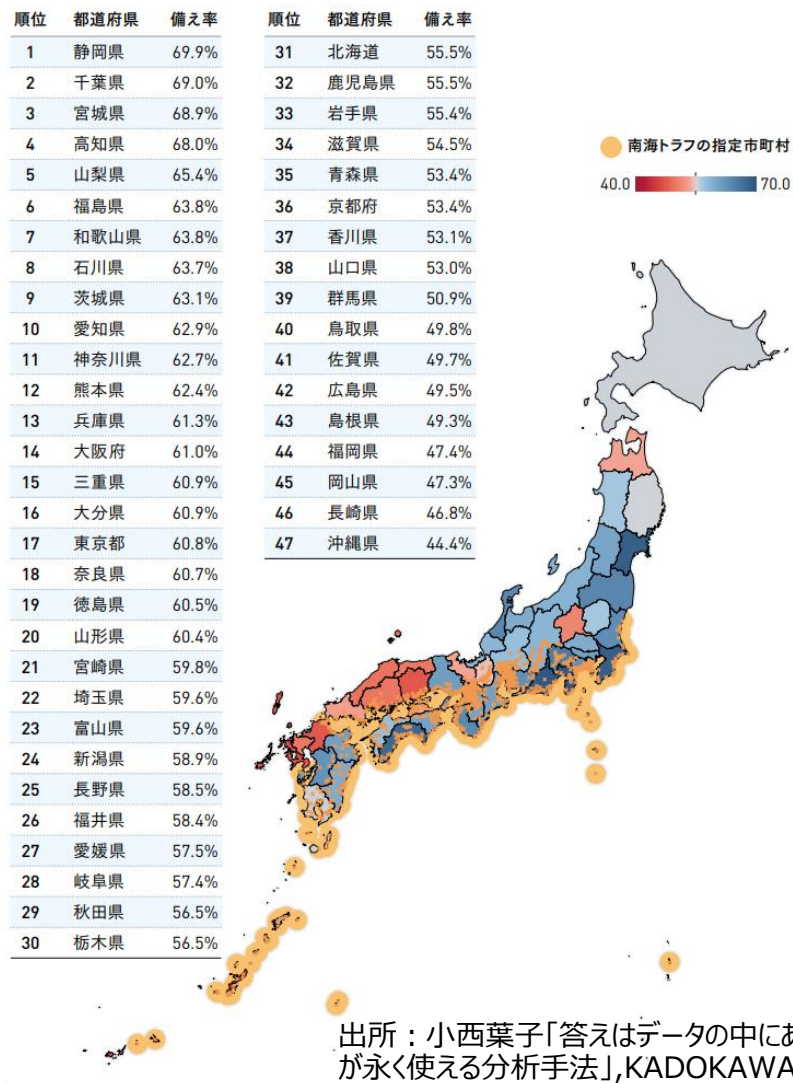
図38 ふるさと納税人気の寄附先：総務省と独自調査の比較



- ▶ 総務省によると2023年の寄附額は1.1兆円を超え、2008年の開始時と比較すると約137倍と年々、規模が大きくなっている。
- ▶ 移動をせずに、地域と関係を持つことができる。
- ▶ 毎年8月に総務省から、市町村別の寄附額、寄附件数等が公表される。

出所：小西葉子「答えはデータの中にある リサーチャーが永く使える分析手法」,KADOKAWA, 2025年

図55 自然災害への「備え」率の都道府県集計（地図と順位表）





ここまでのまとめ

観光、ふるさと納税、備えが上手いっている自治体は、優れた人材がいる（仮説）

- ✓ 地域の産物やアメニティを外の人にとって魅力的かつ、「今」求めるものに変える（見せる）ことができる企画力を持つ地域
- ✓ 官民協力してイベントを企画したり、アイデアを出したりできる雰囲気がある地域
- ✓ 土地に住んでいる人や地域企業が、自分の場所を盛り上げたいと思う地域

▶ 市町村レベルで入手可能なふるさと納税、観光需要を代理変数として、Well-beingの地域差の説明に使ったり、新たな地域指数を作成したい。

 多くの満足度が年次で調査される

 でも、満足度は時々刻々と変化するのでは？といっても、毎秒調べても意味がない。

- ▶ 一日24時間はみんなに平等なので、一日の暮らしぶりの差異と満足度の差異を調べる。
- ▶ 朝起きてから眠るまで、個人にとっての大事な時間（行動）が何か、その満足度の高低と総合的な満足度との関係を調べられる。
- ▶ Well-beingの性差、年代差、地域差の「なぜ」が解決するだろうし、「〇〇の満足度を高める」というKPIも実生活に合った形で作れるのでは？

 総務省「社会生活基本調査」（最新年：令和3年、19万人対象、5年に一度調査実施）

- ▶ 生活時間の配分や余暇時間における主な活動の状況など、国民の社会生活の実態を明らかにするための基礎資料を得ることを目的とする（<https://www.stat.go.jp/data/shakai/2021/gaiyou.html>）
- ▶ 生活の満足度（総合）を1つ加えられれば・・・、属性別、時間配分別、活動状況別、地域別など、一日の暮らしぶり
と満足度の関係が把握できるようになる。

📍 総務省「社会生活基本調査」は5年に一度の調査なので、中間年の日々は・・・

🕒 総務省「家計調査」で、日々の満足度が加わると・・・

▶ 日々の消費の増減と品目構成とその日の満足度の関係がわかるようになる。

<https://www.stat.go.jp/data/kakei/>

ここに、満足度を!

🕒 総務省「家計消費状況調査」で、各月の満足度が加わると・・・

▶ ICT関連の消費やインターネットを利用した購入状況、購入頻度が少ない高額商品・サービスの消費等と満足度の関係がわかるようになる。

<https://www.stat.go.jp/data/jouky>

ここに、満足度を!